

北信濃に春を告げる



まちかど土びな展(昨年のひな市)



中野市公民館報

2014
No.108
(通巻 No.640)

3

発行
中野市中央公民館

編集
文化なかの編集委員会

〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

大切にしたい土びなへの思い

かつて西町祭祀団さいしだんの方から、ひな市にまつわる趣深いお話を伺いました。

昔、山ノ内町の須賀川地区などでは、冬の間大雪が降り積もり家の中で冬仕事のわら細工、竹細工などをしてじっと春を待つ生活を送っていたそうです。

中野のひな市の頃になると雪解けが進み、中野のひな市へ行くためにかんじきを履き、3時間ほど歩いて土びなを買い求めた後は「やっと北信濃にも春がきた!」という思いをかみしめながら家に帰って行ったそうです。

土びなの色彩は、待ち焦がれた春がようやくやってきたという喜びから、赤色などの鮮やかな色が多いと言われるのもうなずけます。

中学時代の同級生は「東京の生活に疲れ、夜遅く部屋に戻ると土びなの優しい表情に癒される」と話してくれました。

今月号の特集

・編集委員座談会
・公民館レポート

あおぞら

「体験」

3年前、編集委員を気楽に引き受けたことから、苦悩は始まった。新聞や本を読むことは好きだったから、同じとはいかずとも、多少

は気の利いたことを書くことができるような気がしていた。しかし、読むことと書くことが同じはずはなかった。

今の時期はこれかなと、テーマと大体のストーリーが思い浮かんだところでパソコンに向かう。ストーリーが決まったからといって、それで素晴らしい文章が書ける訳ではない。打ちこんだ画面をみると、あまりの表現力の乏しさに落ち込むのである。

こんな体験をしたからこそ、書き終えたときには感動に満たされた。苦しかった3年間ではあったが、他の編集委員が書いている「あおぞら」を読むたびに、物の見方に感心させられ、いつも学ばせていただいたことが何よりの成果であったことに終りになって気がついた。どうもありがとうございました。

(麦わら海賊団)



座談会

「文化なかの」を考える

文化なかの編集委員
 土弓代志 幸彦 美強 溥幸
 敦真 康篤 敏一 幸三 千博
 滝藤 林岡 藤橋 水辺 小林
 大須 小月 阿高 清渡 小林

司会 3月で、編集委員の任期が終わります。今までやってきたことや「文化なかの」についての感想をお聞かせください。

▼ 私は市外から嫁いできましたが、中野市ってすごくいいところだと思えます。せっかく文化なかのという紙面があるので、『キノコなどの特産物の特集』や、『中野市で行われている行事』など、これからも中野市の魅力を集めていけばいいと思えました。

▼ 読んでいただいた方から、「良かったよ」と言っていた。いた時はすごく嬉しかったです。編集委員を体験しなかったら、文化なかのや広報なかのを、あまり読まないまま過ぎていってしまったと思います。いい経

験をしました。

▼ 毎月配布されてきますが、編集委員になる前は、表紙を見て、中をさっと見て、裏表紙を見ているだけででした。今の文化なかのは、「輝いています」が1番目立っています。中野市にはこんな人もいるんだなって気づかれます。サイズも良いし、カラーになったことで見栄えもするし、いいコーナーになったと思います。

司会 「文化なかの」で残していったほしいものや、これからの可能性・将来について、語っていただければと思います。

▼ IT社会が広がって人間疎外の危険が高まっていますが、文化なかのは、地域文化、ボランティア活動そして一生懸命活躍している人達を取り上げています。是非こういう人間の良いや連帯の良さを伝えていって欲しいと思います。

▼ どんな内容のものでも続けることが大事だと思います。10年30年40年とそれだけ長い時間

続けていると、結構時代を映す鏡のようになってきます。社会の動きも、さらっと文化なかのを流し読みするだけで見えてくることもあるので、とにかく続けることが大事かなと個人的には思っています。

▼ 街で開催されるイベントに、エノキを栽培したままピン付きで持っていくと、だいたいの皆さんが驚かれます。知っていて当たり前と思っていることが、意外と知らないことも多いので、そういうことが少しわかるだけでも、手に取ってもらえる文化なかのになるんじゃないかなと思います。

司会 最後に中野市の文化や中野市のことについて、一言お願いします。

▼ 私は、ずっと中野市に住んでいて、地元の事を知らないのは、案外ずっと中野市に住んでいる人のような気がします。他の地域から来られた人に中野市の事を教えていただく事もあります。文化なかのを通して、地域の皆さんの活動、地域文化や歴史を広報していくことが大事だと思います。

▼ 息子が「母さん、就職試験で、中野ってどういう所で、何が特産ですかって聞かれたんだよ」と言われた時に、これまでは彼に何を伝えてきて、彼は何を覚えてきたのかちょっとドキリしました。文化なかのが、息子や若者の目に触れて、自分の故郷を好きになってくれたらいいと思います。

▼ とにかく中野の出来事を足でくまなく拾って、行事も視点を交えて書くことで、また読んでみようという記事になると思います。ずっとずっと中野市民のための文化なかのであって欲しいと思います。

司会 「文化なかの」は、自由に何でも書けるところが素晴らしいと思っています。また、市民と一緒に何ができるのかということを考えて発信できればおもしろいなと個人的には思っています。次の編集委員さんには、新しい視点で中野市の良いところをどんどん発信していただければ嬉しいです。3年間どうもありがとうございます。

(平成26年2月13日対談)

恋 と乙女と生チョコレート

豊田公民館では、2月2日(日)、「パティシエールのバレンタイン スイーツレッスン」を開催しました。講師に手作り菓子工房ミミエデンの宮下彩花(あやか)さんを迎え、小学校高学年から高校生までの女子24名が生チョコとステキなラッピングを習いました。

チョコレートの混ぜ方などプロの菓子職人ならではのコツを伝授していただき、本格的な生チョコ作りに参加者は真剣なまなざし。しかし、扱いの難しいチョコレートに四苦八苦。材料を混ぜ合わせている途中で固まっていくチョコレートを溶かし直したり、できあがった生チョコのやわらかさに悪戦苦闘したり…。ココア



だれにあげるのかな?

まみれになりながらも、初対面の友達とも協力し合い、無事、生チョコはおいしく完成しました。

試食を兼ねたお茶会では、できたての



わたしの思い、伝わりますように…

生チョコのとろっとした食感に感動し、バレンタインの話題で盛り上がる場面もあり、にぎやかなひとときとなりました。

生チョコだけでなく、簡単でかわいいラッピングも教えていただき、充実した内容に皆さん満足した様子でした。

今年のバレンタインは、いつもよりレベルアップした手作りスイーツを贈ることができそうですね。

カルチャーセミナー 市内工場見学ツアー

カルチャーセミナー 市内工場見学ツアーを1月28日(火)に開催し26名が参加しました。

午前中に北部学校給食センターを見学し、DVDによる施設の特徴を映像で見てから、本日の給食の米粉パン、牛乳、スープ、酢豚、サラダをいただきました。



給食センター本日の献立



II 回転釜による調理

月1回の県産米粉を使用したパンは、水分を多く含んだようなしっとりした食感で、中野市産の大根をたくさん使用したサラダは、塩分は控え目ですが美味しく感じられました。

その後、高丘工業団地内の新光電気工業(株)を訪問し、工場長の山崎さんから、半導体に注目し、加工して付加価値を付け今日に至った経過説明をいただき、工場内の作業を見学しました。「ロマン、そろばん、温かさ、現場主義、質素、儉約を心得としたトヨタかんぱん方式を参考に在庫管理の有効利用を図っていますはまだ未完成」とのことでした。



新光電気(株)山崎工場長のお話

こんにちは 分館

七瀬区は、市の中心に位置し市有民俗文化財に指定されている五輪塔や県指定史跡の双子塚古墳のある長い歴史と伝統のある地区です。

分館活動の運営は5名の役員が知恵を出し合い区民の繋がりを深める事と、気軽に誰でも参加できる行事を計画しています。一年間の主な事業は、班別対抗球技大会・夏休み子ども映画会・敬老会・分館講座・人権懇談会・どんど焼き、そして分館

報を年2回発行し地域の交流の場、情報の共有化に取り組んでいます。公民館活動も少子高齢化に伴い、事業内容を見直しすることもありますが、歴史と伝統を受け継ぎ分館事業を通じて、子どもから大人まで区民皆様の親睦と交流が深められればと思っています。

七瀬分館

今後とも歴代分館関係者が作り上げた素晴らしい事業を継続し、益々発展していくように努力していきたくと思います。ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひします。

(七瀬分館長 高木 学)



どんど焼き

ふるさとの歴史

正徳元年(1711)、七瀬村が代官所へ提出した「指出明細帳」(村勢要覧)等で、当時の様子を垣間見たい。○当村は用水不足で、とくに八ヶ郷の村々のように堰口をもっていない。吉田・新井・田麦各村の落水だけで稲作をしているので、植付けも思うように

いかず、数年水不足になり、田を畑にして大変困っている。

○橋は全部で10か所(石橋3・木橋7)、橋が多いのは吉田・新井・田麦の落水を七瀬村へ引込む堰の道程が長いためであろう。

○堤は1か所。必要性を認め普請の費用を代官所で出している。

七瀬村の北東部の字地名を見ると、

七瀬村と用水

田麦・新井・吉田各村と接する位置に水出・野地附・街渠(別名どぶ)と水に関わる地名が連なり、水出地籍には現在も大きな湧水の痕跡がある。

明治政府は、同2年版籍奉還に合わせ、村民が手を入れなかった土地を国有化した。しかし、無価値なものや払い下げ願ひの出ている湿田原野・湖沼

などの払い下げも行なった。

明治25年、水出地区の原野3反28歩が代金2円50銭で払い下げられている。名前のとおり水出は常に水が湧き出し留まり、池の周辺は湿地帯というのが近世から近代初頭にかけての姿だったのである。

「街渠」というのは、堤防に沿って設けられた排水路のことである。これらのことから、水出・野地附の西側に堤があり、その堤に沿って排水路が造られていたことがわかる。水の問題は何か村かに跨り、利害が絡むので代官所でも重視していたのであろう。

現在も水出・野地附・街渠の接点の辺りを通称で「つつみ」と地区の人は云い、街渠の辺りを「どぶ」と呼ぶ。高度成長期の昭和40年代まで葦が生い繁り、それを刈って売買もされていたという。

(松沢邦男)

小林一茶 好きなら句 好かれる句

昨年は一茶生誕250年でした。

中央公民館では、近代文学研究者の堀井正子さんを講師に、近代文学講座を雪が降りしきる中、2月8日(土)に開催しました。一茶と中野にまつわるお話では、一茶は袋屋山岸家の梅堂・梅麿親子と親しい交際をし、「鼻よつらくせ直せ春の雨」の句を詠んでいます。

一茶は袋屋清左衛門邸の庭園「椋装園」の船形石がお気に入りでした。一茶句碑が信濃町を初め北信濃の各地に残されていますので、一茶にゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょう。



堀井正子さん

今月の伝言板

講座の詳しい内容につきましては、各公民館までお問い合わせください。

■中央 ☎ 22-2691 ■北部 ☎ 26-0677 ■西部 ☎ 23-1024 ■豊田 ☎ 38-2922

公民館ホームページ <http://www.city.nakano.nagano.jp/kominkan/>

	講座名	日時	場所	講師	備考
中央公民館	きり絵 体験コーナー	3月31日(月) 午前10時～午後3時	中央公民館 教室	中野きりえの会 の皆さん	＜申込み＞不要 ＜受講料＞無料 ＊カッター、材料等は用意して あります。
	中央公民館ギャラリー 短歌展 中野短歌会				
豊田公民館	家庭教育学級 リズムであそぼう	3月14日(金) 午前10時30分～正午	豊田文化 センター	ドラムサークル 諏訪 代表 原 房子 先生	＜対象＞3歳未満児と保護者 ＜定員＞15名 ＜受講料＞無料 ＜持ち物＞水分補給の飲み物 ＜申込み＞受付中
	チャレンジ子ども教室 生きる力を育む ふるさと自然体験 天体望遠鏡で 星空を見よう	3月22日(土) 午後7時30分～9時30分 ※予備日 3月23日(日) 午後7時30分～9時30分 (22日に星の観望ができない場合)	豊田文化 センター	信州中野天文同 好会の皆さん	＜対象＞どなたでも(中学生以 下の方は保護者同伴) ＜定員＞50組 ＜受講料＞無料 ＜服装＞あたたかい服装 ＜申込み＞3月19日(木)まで
	チャレンジ子ども教室 生きる力を育む ふるさと自然体験 野鳥の観察	3月23日(日) 午前8時～正午	豊田文化セ ンター集合	信州野鳥の会 出野 富永 先生	＜対象＞市内小中学生と保護者 ＜定員＞20名 ＜受講料＞無料 ＜持ち物＞おにぎり、水筒、(持っ ている人) 図鑑、双眼鏡、など。 ＜服装＞あたたかい服装 ＜申込み＞3月17日(月)まで

中野市成人式のおしらせ

進撃の成人

～ハタチの壁を越えて…～



平成5年4月2日～平成6年4月1日生まれの方が対象となります。

中野市に平成26年2月1日現在で住民登録している方を対象に、案内状をお送りします。現在、市外にお住まいの方で中野市成人式に出席を希望される方は、事前に中野市中央公民館までご連絡ください。

期 日 5月4日(日) みどりの日

時 間 午前9時30分 受付
10時 開式

会 場 中野市市民会館ホール

第33回 中野市民書道展

毎年、ひな市に市内の書道愛好者の作品が一堂に会す書道展です。奮ってご応募ください。

出品資格 市内在住・在勤している方、または、市内の書道グループに所属している方

出品数 1人1点まで(未発表の作品に限ります)

出品規格

- 一般の部(高校生を含む)
条幅半折の大きさで、裏打ち仮巻き着装
- 小中学生の部
条幅半折4分の1縦長書、裏打ちをしないで仮巻き着装

申込み 3月20日(休)まで
所定の出品申込書により中央公民館へお申込みください。

展示期間 3月31日(月)～4月1日(火)
午前9時～午後6時

展示会場 中央公民館 講堂





ヒレンジャク／柳沢（倉田昭平）



水仙／草間（宮澤 聡）



ひょうたん
瓢箪かつぎ／新井（月岡尚雄）



北信五岳と延伸する北陸新幹線／柳沢（小林幸成）

花と季節の写真募集

宛先

中野市三好町一丁目4番27号
中央公民館

☎222・2691

Eメール c-kominkan@city.nakanonagano.jp

文化なかの編集委員会では、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限り、四ツ切りまで（ワイドサイズも可）のプリント、デジタルデータ（未加工のもの）。氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前等を書き送ってください。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝えください。随時募集！

輝いていきます

静山流詩舞の会

2月の雪の降る夜。上今井公民館では、三波春夫の「雪月花」の曲に合わせて静山流詩舞の会の稽古が行われていました。会の指導者はこの道27年の小林良成さん。発表会に向けてお弟子さんに熱のこもった指導をされていました。

扇子を使いながら、ときには勇壮に舞う詩舞の魅力に引き込まれていきます。恒例の発表会の他に、



ビスセン
ターやグ
ループホ
ーム、敬
老会など
でも詩舞
を披露し、
地域の方
に喜ばれ
ています。